

帯広開発建設部

Web 広報誌

第15号

平成28年10月21日

発行



台風・大雨が十勝を襲う

被害と帯広開発建設部の対応

8月中旬から下旬にかけて、十勝地方は台風による大雨に見舞われました。台風第7号を皮切りに、観測史上初めて3つの台風が上陸した直後の8月30日には、台風第10号の襲来によって、再び河川が増水し、国道は通行止めとなりました。

帯広開発建設部では、台風第10号による暴風雨災害対策本部設置し、台風の対応を行いました。

河川の被害と対応

31日朝には札内川と戸蔦別川の合流点で破堤を確認しました。また、夕方には音更川で堤防の一部の流出を発見しました。

十勝川・札内川では堤防が耐えられる最高の水位である計画高水位を超えたほか、12箇所の観測所で観測史上最も高い水位を記録しました。

被災箇所では緊急復旧工事を迅速に行い、被害を最小限で食い止めるため尽力しました。



札内川 破堤の様子



24時間体制で復旧

道路の被害と対応

大雨の影響により8月20日から国道273号三国峠は通行止めとなりました。台風第10号のため、30日には国道38号狩勝峠、国道274号日勝峠が通行止めとなったことで、管内と主要都市を結ぶ主要な幹線道路のほとんどが不通となりました。

管内主要幹線は甚大な被害と長期の通行止めを余儀なくされましたが、昼夜を問わず復旧に努めたことによって、狩勝峠は9月11日、三国峠は9月30日に通行止めを解除しました。

日勝峠は天候の回復後の上空からの点検により、数多くの被災箇所が確認されました。現在も復旧に向けた作業が行われています。



台風後に判明した日勝峠の被害

農業の被害と対応

中小河川の増水により、管内の農業地区が大きな被害を受けました。御影地区の石山頭首工、円山頭首工では取水ができない状況となりました。また、調査により多くの用排水路の被災を確認しました。



被災前の石山頭首工



被災後の石山頭首工

帯広開発建設部は、十勝の暮らしと安全を守るため、
今後も全力を尽くして参ります

十勝オホーツク自動車道 建設中！

帯広開発建設部では、北海道横断自動車道網走線（十勝オホーツク自動車道）の建設を進めています。足寄と北見を結ぶこの道路が開通することによって、十勝圏とオホーツク圏のネットワーク強化が期待されています。

十勝やオホーツクの人々にとって、重要なものになると予想される十勝オホーツク自動車道ですが、工事現場ではどのようなことが行われているのか、一部を皆さんにご紹介します。

①環境調査

環境調査とは、工事が行われる現場付近の環境を調査し、事業が及ぼす影響について調査するものです。この調査は、付近に生息する生物、特に希少種の生息環境への影響をなるべく少なくした事業計画の作成を目的として行われます。



▲魚類調査の様子



▲シカの足跡を発見



▲望遠鏡で鳥類を観察

②橋の建設現場

高速道路や高規格道路では、一般道と同様に橋が架かっている箇所があります。十勝オホーツク自動車道では現在、陸別～小利別間で日宗橋の建設を進めています。



←日宗橋は、橋を支える脚の部分（橋脚）の建設が行われています。現場ではクレーン車により、作業を行う足場が作られました。

→作業用足場の最上段から見た景色です。かなりの高さであることがわかります。

現時点で約10mほどの高さですが、今後、工事が進んでいくにつれて約2倍ほどまで高くなるそうです。



河川愛護月間の取組

河川愛護月間の7月には、関連行事として札内川河川敷の清掃のほか、河川の美化・清掃等に功労のあった特定非営利活動法人 帯広NPO28サポートセンターに「河川功労者表彰」の授与を行いました。



道路ふれあい月間の取組

道路ふれあい月間の8月には、関連行事として帯広市内において道の日の清掃を行ったほか、道路の美化・清掃等に功労のあった方々への「道路功労者表彰」の授与を行いました。



「ピア21しほろ」が重点道の駅に認定



重点道の駅は、地域活性化の拠点となる優れた企画があり、今後の重点支援で効果的な取組が期待できるものとして国土交通大臣が選定するものです。

士幌町の「ピア21しほろ」が選定されたため、河畑部長から小林士幌町長に選定書が手渡されました。